

羅臼岳山開き

日本百名山の一つでもあり、知床連山で最も高い山「羅臼岳（標高1661m）」の山開きが7月3日（日）に行われました。

当日は早朝6時より、岩尾別側登山口である木下小屋近くで安全祈願祭が執り行われ、斜里町観光協会会長や斜里山岳会会長等関係者列席の下、シーズン中に安全で事故のない登山が行われるよう祈願しました。



チングルマ

天候は曇りがちとあいにくの天気でしたが、登山道脇にはエゾノツガザクラやチングルマ等の様々な高山植物が咲き誇り登山者の目を楽しませていました。また、羅臼平から山頂までは時折晴れ間も見え、ガスの切れ目から見える硫黄山までの尾根筋や雲海から山頂を覗かせる爺爺岳ぢぢやぶの壮大な景色は、それまでの登山の疲れを忘れさせてくれるものでした。



羅臼岳山頂

今年は寒い日が続いたせいか雪融けが遅く、登山道途中の大沢にも大きな雪渓が残っています。山で起きる事故の原因の大きな一つが、この雪渓での滑落とのことで、登山者は例年以上に足元に注意して登る必要があります。

知床エコツーリズム推進協議会開かれる

6月23日（木）羅臼町に置いて、斜里、羅臼町の観光ガイド等から構成される同協議会の平成17年度第1回目の会議が開かれました。同協議会は平成16年度から知床でのエコツーリズム普及を目指し様々な取り組みを行っています。議事は17年度事業計画及び予算、知床エコツーリズム推進計画、海外先進地視察、ワーキンググループ設置についてなどで、滞在型モデルツアーの実施状況や知床半島適正利用推進の状況などの報告がありました。会議では今後同協議会のメンバー10数人で構成した作業部会を設置し、その中で「利用ルールなどの指針」の検討を行い、検討した各種指針を同協議会に提言し、06年度にエコツーリズム指針の策定を目指すこととしました。



カムイワッカ・知床大橋方面の交通規制

知床観光スポットの、カムイワッカ・知床大橋方面については、今年は、落石防止工事のため、通年一般車両等の通行はできません。但し、今年度は7月13日から9月20日までの70日間は工事を中断し、自然環境の保全と快適な利用を図るため、カムイワッカ方面へはシャトルバスを運行することとなっております。徒歩や自転車での通行もできませんのでご注意ください。



北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4113 北海道斜里郡斜里町本町11番地
電話 01522-3-3009 FAX 01522-3-3160
ホームページ <http://www.siretoko.knc.ne.jp/>



(写真：ヒトリシズカの花)

知床は今

7月10日（日）～17日（日）、南アフリカ・ダーバンで行われた第29回世界遺産委員会で「知床」が世界自然遺産に登録されることが決定しました。5月下旬のIUCN報告で「登録が適当」と勧告されていたものの、推薦に携わった関係行政機関や観光業界、そして知床を愛する多くの人々が一同ホッと胸をなで下ろしたのではないのでしょうか。特に、10年以上前から登録に向け活動してきた斜里、羅臼両町の関係者にとっては、一つの到達点に達したことで感慨深いものを感じられていることと思います。

過去、「知床旅情」のヒットや横断道路開通等により知床観光がブームとなった時期がありました。ここ数年は訪れる人が年間200万人を超えているそうです。今回、世界自然遺産に登録されたことで、更に多くの人々が「最果ての地」に足を運んでくれるのではないかと期待している方も大勢いるでしょう。

一方で、多くの人々が訪れるが故の問題も発生しています。一部地域では利用の集中による植生等自然環境への影響やヒグマとの軋轢等が懸念されており、平成11年度からは夏期集中期間のカムイワッカの滝への一般車両規制（平成17年度からは落石防止工事により通年規制）が実施



されているほか、平成13年からは知床国立公園の望ましい保護と利用のあり方について、学識経験者や関係行政機関、地元関係者による検討が進められています。

遺産とは先人が遺した財産であり、知床がこれから先、私たちの子孫にとって「遺産」で有り続けるためには、「先人」である私たちが現状を維持し、より良くしていく努力を怠らないことが必要です。地元でも、遺産登録は誇らしいことと感じつつ、お祭り騒ぎだけで終わるのではなく、今後生じる責務について冷静に受け止めている雰囲気を感じます。

私たちも、遺産地域の大半を所管する組織の一員として、日々の活動を通じ、後生にこの環境を遺すために何をしたら良いのか、について常に心懸けたいと思っています。

第57回 森とのふれあい

『初夏の知床の森で地球温暖化について考えよう』を開催

～炭焼きと幻の沼「ボンホロ沼」で自然散策～

第57回森とのふれあい『初夏に知床の森で地球温暖化について考えよう』を6月19日(日)に開催しました。参加者は北見や網走市を中心に25名が参加し、午前中は森林センター敷地内に設置したドラム缶型の簡易炭窯で炭焼き体験をした後、午後はボンホロ沼を散策しました。

今回参加者の方々が炭にする木は山の道(林道)に被いかぶって邪魔になり伐られた木です。まず鋸で原木を切るところから始め、シュッシュッとリズム良く木を切る手慣れた方もいました。



ダケカンパを切る



汗を流して火おこし

最後に職員より炭・木酢液の用途について、畑や庭に炭や木酢液を入れると土壌改良になることや、冷蔵庫や下駄箱に炭を入れたら臭い匂いが消えた体験談を話し、あらかじめ焼いておいた炭を皆さんに持ち帰ってもらいました。参加者の方々からは炭の用途を実際に試してみますとの声が聞かれました。



森を抜けると出現する沼

遊歩道沿いには直径1メートルを超えるミズナラの大径木、エゾシカの樹皮食い跡やトドマツに付いた熊の爪痕等があり、所々でインストラクターの説明を受け参加者のみなさんはうなずきながら感心していました。

沼の周辺は新緑で覆われセミの鳴き声が響く中、森の爽やかな空気に浸り約3kmのコースを歩き、こちよ汗を流しました。バスの中では地球温暖化について詳しい説明が行われ、森林が二酸化炭素の吸収源になること、日常生活からできる温暖化防止策について考える良い機会となりました。



扇いで火付けします

午後からは、世界自然遺産のエリア内にある自然観察教育林へ移動し、春先の雪解け時期にしか見られず幻の沼といわれる「ボンホロ沼」周辺を散策しました。参加者は新緑の森の中を歩き、静かなたたずまいのなか「幻の沼」に感動していました。晴天に恵まれたなか、沼と背後の羅臼岳が織りなす雄大な景色に感動の声をあげていました。今年は雪解けが遅く、例年より沼の水多く残っていました。参加者は沼と新緑と羅臼岳のコントラストを背景に思い思いに記念写真を撮っていました。



巨木の森を見上げて

平成17年度

知床国立公園利用適正化検討会議開催!

知床には年間200万人を超える観光客が訪れており、一部地域では利用の集中による植生等自然環境への影響やヒグマとの軋轢等が懸念されています。そのため、平成13年度より、知床国立公園の望ましい保護と利用のあり方について関係行政機関や学識経験者等により検討が重ねられてきています。

今回は平成17年度に入って第1回目の会合であり、7月4日(月)釧路地方合同庁舎会議室にて開催されました。

会議では、まず「先端部地区作業部会」が開かれ、海岸線のトレッキングやシーカヤック等による知床岬への立ち入りにおいて守るべきルールとしての「利用の心得(案)」の検討が行われました。心得(案)では、利用形態に応じた注意事項等が整理され、今後、よりわかりやすい表現に修正された後、今年秋にもパンフレットやHP等を通じ、ルール遵守について広く呼びかけられることとなります。

続けて行われた本会議では、知床横断道路を中心とした「中央部地区」についての利用適正化基本計画の検討が行われ、カムイワッカや知床五湖等のエリア別の利用の現状と今後のあるべき姿について議論が交わされました。今後は8月中を目途により具体化した計画づくりが行われることとなります。

また、会議の中では、知床半島で運行している遊覧船事業者に対しケイマフリ等野生動物への生息環境に影響を及ぼさないような配慮を要請する文書発出についても議論されました。今年6月には座礁事故も起きていることから、委員からは「要請ではなく警告でも良いのでは」との意見もあり、本格的な観光シーズンを迎えるなか、遊覧船運航により一層の注意が求められることとなりました。



適正な利用が求められている知床岬

以久科原生花園



エゾスカシユリとハマナス

7月に入り、以久科原生花園にエゾスカシユリ、ハマナスやハマフウロなどの花が咲き始めました。近隣では小清水原生花園が有名ですが、斜里海岸以久科のエゾスカシユリの群生も見ごたえがあり全国的にも有名とのことでした。

今年は雪が多かったために例年に比べて遅い開花となりましたが、原生花園を訪れた観光客は、一面に咲き誇るエゾスカシユリを熱心に観察していました。



群生しているエゾスカシユリ